



こうべ森の学校だより

No. 51, 2013. 5月号

10周年記念特集号2

発行人：こうべ森の学校 編集委員会
 発行所：神戸市北区山田町下谷上字中一里山4-1
 神戸市森林整備事務所内
 Tel：078-371-5937 Fax：078-371-1087

こうべ森の学校 10周年記念式典

十年の 若木はめざす 大樹まで

こうべ森の学校は、六甲山緑化百周年を機に、これからの100年の森づくりを、市民・企業・行政の参画と協働で進めようと、市民参加のもと、伊藤ハム（株）の支援を受けてはじまりました。活動が始まって10年目を迎え、過去最多の参加者（約150人）が集い、天候に恵まれ記念式典が開催されました。

会場のログハウスで、パワーポイントによる「こうべ森の学校の十年の歩み」を紹介。東郷代表より、「10歳の若木がこれからも大樹に育つよう地道に保全活動を続けよう」との挨拶があった。

矢田神戸市長の挨拶、伊藤ハム（株）への感謝状と記念品の贈呈、来賓の紹介、高橋敬三文庫の披露の後、全員で記念撮影（写真下）。手入れの行き届いた風楽山荘の背山の散策をした後、アフリカン太鼓を聴きながらパーベキューを満喫しました。

その後、安全マニュアルの学習会では、「安全マニュアル（入門編）」が配布され、森の手入れ基本のルールを解説しました。

こうべ森の学校の更なる発展・充実を願い、どのような展望をもち、ひとりひとりがいかなる活動を求めていくことが大切かを考える機会になったことと思います。

最後に、この度の式典の企画・準備や進行と後片づけに黙々と協力をされたスタッフの皆さんに感謝致します。

神戸新聞 25.4.22

再度山の森守り10年



手入れの行き届いた森を散策する会
 員ら＝再度公園

六甲山の緑化事業発祥の地、再度山（標高470m）周辺で森の手入れに取り組みボランティア団体の「こうべ森の学校」が結成10年を迎え、記念式典が1日、再度公園（神戸市北区山田町下谷上）で、250人の会員が活動する。

六甲山の緑化事業発祥の地、再度山（標高470m）周辺で森の手入れに取り組みボランティア団体の「こうべ森の学校」が結成10年を迎え、記念式典が1日、再度公園（神戸市北区山田町下谷上）で、250人の会員が活動する。

森の十年の春は肌寒く
 再度の若葉が 光る祝いの日 賢

こうべ森の学校が記念式典
 「地道に保全活動続ける」



ログハウス内での**記念式典**



受付風景



東郷代表挨拶

司会の近藤さん



▲10年のあゆみに注目の参加の皆様

説明をする齊藤さん▶



▲矢田神戸市長挨拶



▲伊藤ハム株式会社へ記念品贈呈



▲高橋まゆみ様



▲兵庫県森林ボランティア団体連絡協議会桑田会長



▲森林植物園 福本様

▼参加者でうめつくされた会場



背山散策



パーティー



淡河ジャンベ会アフリカン太鼓の演奏



高橋敬三文庫 P6 関連記事



小野さんのお話しに
聞き入る参加者の
みなさま

安全マニキュアル
学習会

六甲山の花散歩シリーズ

神戸市立森林植物園
福本市好



2009年

2010年

2011年

2012年



その1 アセビ



その7 マンサク



その13 ヤブツバキ



その19 フキノトウ



その2 キブシ



その8 ヤマウグイスカズラ



その14 タムシバ



その20 シュンラン



その3 エゴノキ



その9 ウツギ



その15 ヤマボウシ



その21 コアジサイ



その4 リョウブ



その10 クサギ



その16 ハリギリ



その22 カラスザンショウ



その5 ハギ



その11 ナンバンギセル



その17 リンドウ



その23 コウヤボウキ



その6 ヒイラギ



その12 ヤツデ



その18 ヤマノイモ



その24 サルトリイバラ

10周年迎えて スタッフ・会員のコメント

1.安全衛生委員会は

安全衛生委員長 東郷 賢治

森でのボランティア活動には思わぬ危険が潜んでいて、それが大怪我や事故の事例に及ぶことは既によくご存知のところ。こうべ森の学校のボランティア活動が、六甲山のみどりの育成に役立つとともに、災害に強い森づくりに貢献したとしても、ひとたびアクシデントを起したり、仲間に迷惑を及ぼしたりしますと、折角の行為が半減してしまいます。時には取り返しのつかないことにもなりかねません。

そこで安全衛生委員会では平成24年度安全マニュアルを改訂しました。入門編で基本的な事項のみを分かりやすく、丁寧に心を掛けて編纂しています。大切なはその内容を、再度振り返り、確認し、着実に実行することが肝要です。会員が共通理解を深め、ルールとして守られる時はじめて安心・安全の活動と言えましょう。本年度は安全マニュアルの応用編を予定しています。

鉋の使用についても使用をご希望の方には「正しく、安全に」を呼びかけ、講習を受けていただくようにしています。まだの方はお申し出ください。

また、万が一に備えて、ボランティア保険へ必ず加入しましょう。多様な活動を保険の対象としていますから、個人個人での加入となっています。

会員の平均年齢は決して低くはありません。それに伴う危険はさらに増大します。日常的な健康管理に十分気をつけると共に、入念な準備運動も大切です。活動中も決して無理をしないで、一息いれるのも効果的です。

2.ボランティア活動に参加して

木工工作グループリーダー 小林 二郎

退職後、「こうべ森の学校」に参加して6年目になった。人とのつながりや、いろんなことを学び、充実した毎日を過ごしている。

中でもログハウスの建設は未知の体験だったし、森に入れば森の手入れの必要性、伐採した木片やツル等を素材に自分だけの作品をつくるのを教わり、それが自分の腕を磨くことにつながり、より楽しみが増加していった。

これらの経験から、地域の小学校で自然環境の一環として校外学習にたずさわり、子供達とも触れ合うことも出来て自分として一歩前進したと思う。

森に入り、森の手入れをすれば萌芽更新で森がよみがえり、森の中に太陽の光が入り、草花が芽ぶくのがわかる。また、森の中が明るくなって、隠れていたあたりの景色が見渡せる様な状態になると、ホットした気分になる。

これからも好きな山歩き、森学で森の手入れ、また小学校の校外学習の手伝いと楽しみながら継続して行きたいと思う。

3.ログハウス建設の思い出

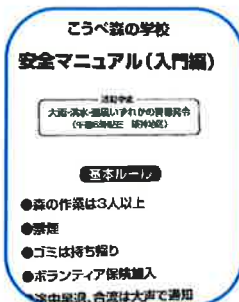
木工工作グループ 黒子 兵吾

私がこうべ森の学校の活動に参加したのは、幸運にも丁度ログハウスの建設がスタートした時でした。基礎工事用のコンクリート型枠作りから始まり、原木の皮むき、丸太を組み上げるのに必要な切り欠き部を作る為の罫書きとそれに続く、各種の電動工具やノミを使った切削加工など、生まれて初めて扱う道具や作業に戸惑いながら、ゆっくりではあるが徐々に完成に近づいていく立派な建造物に興奮と喜びを感じたのでした。

中でも最も印象に残っているのは暑い夏の炎天下での皮むき作業です。高圧水銃だけでも皮むきは出来るけれども作業効率を上げる為、私達は手作業で荒く皮を剥いておき、高圧水銃で仕上げる方法をとりました。

この手作業での皮むきはかなり体力を必要とし、一方、原木の表面を傷つけないよう細心の注意が必要です。作業場は炎天下の駐車場で地面からの照り返しもあり、作業は非常にきついものでしたが誰一人苦情を言う事もなく、むしろ同僚と速さや出来栄をひそかに競いながら黙々と作業したのでした。

長い間の現役生活では全く経験したことの無かった苦勞でしたが、なぜか成し遂げた後に満足と充実感が残りました。このような素晴らし



(p.5より続く)

い企画をして下さった事務所の方々や、工事の間ご指導して下さいました方々に深く感謝する次第です。

4 こうべ森の学校に参加して

木下 英吉

現在、奈良県十津川村で、一昨年の台風12号で傷んだ熊野古道等の道普請を村民と共に定期的に行っていて、多くの人々と馴染みになりました。森学の活動は新聞で知り、市民参加型の活動が通ずるように思え、また、山の作業を広く知りたいと、今年1月の定例活動から時間を見つけ参加するようになりました。

まず、朝集合時の澄みきった空気が美味しい、思い切り呼吸をします。専ら山での作業ですが、まさに“木を見て山を見ず”にならないよう、のセンスが必要とされ、道具の使い方も、辺りを見回し最も安全で有効な方法は何か？と自問しながらの判断が求められます。定例活動には、子どもから年配の方まで、幅広い世代が同じ作業を行い、皆さん良い表情で“またね”とそれぞれ家路につかれます。

今夏、活動10周年を迎えますが、これだけ長期に続けられるのは、市民が六甲山を愛し、自発的に参加されているからだと思えます。

今後も、活動が安全に続けられることを願うと同時に、時間を見つけながら関わらせていただく所存です。

5.森の手入れを10倍楽しむ法

自然観察グループリーダー 徳山 武

私たちは、森に入るとまず枯損木を片づけ、足元をよくし、除伐6木を伐り、玉切りし見栄えよく集積します。しかし森には種々雑多な樹木があり、生物多様性の観点からも常緑の樹も残さなければなりません。そのためには森全体ではなく、個々の樹をみて樹名札を設定することが必要になってきます。しかし、六甲山地とその周辺域で1700種とも言われているのを聞いただけで引けてしまいますが心配することはありません。森の手入れをするとき、必要な

樹はせいぜい100種ほどです。森に出現する頻度の高いものから少しずつ覚えていくことをお勧めします。それには六甲砂防事務所の六甲山系電子植生図鑑の「いろいろランキング」が参考になります。20種ほど覚えると森に入ったとき、それらの樹以外の樹が目に入ります。1年もすると100種を超えるでしょう。

そうなってくると、いろんなところの自然観察会などにも行きたくなり、飛躍的に同定できる樹が多くなります。小道具はルーペと入って行けないところや高い樹を見る時に便利な簡易な双眼鏡があれば十分です。同定するための図鑑は、六甲砂防事務所の「みんなの森づくり」のハンドブックで十分です。このころになると、森の手入れや山歩きは以前にもまして楽しいものになるでしょう。

高橋敬三文庫のご披露

昨年(24年10月)、高橋家より神戸市へ故高橋敬三さんの蔵書が寄贈され、高橋さんが所属しておられた建設局内で整理されました。蔵書は453冊に及びます。



25年1月、生前の高橋さんの実践・指導実績等々から森林整備事務所へ移管されました。その活用方法については、敬三さんより生前、森の学校にて活用していただけたらと聞き及んでおりましたが、そのご遺志を尊重して、こうべ森の学校の図書として整理、保管したうえ、所定の手続きを経て、利用させていただくことで、現在保管手続きを進めています。

拝見させていただきますと、大変専門性の高い貴重な資料もあり、全て一般公開することには如何かと考えており、森林整備事務所とも協議し、登録後一部別途保管させていただくことになろうかと思っています。木工工作グループでは、立派な本棚を製作致しました。敬三さんのお人柄が偲ばれる書籍の数々に接し、私ども会員のみならず、敬三さんを知る皆さんに喜んでいただけるものと思っています。

4月21日の記念式典では、そのうちの一部のみ展示させていただき、当日の参会者に披露しました。

編集後記：再度で六甲の緑化事業が始まったとされる1903年(明治33年)から100年後の2003年に「こうべ森の学校」が開校しました。“10年一昔”と言いますが、それまでの年月の十分の一の期間が経過し、

それにたずさわった市民は約1万3千名を優に超えました。昨年秋の紅葉、そして今春のコバノミツバツツジは、10周年を祝ってくれている様に見事でした。(LH)